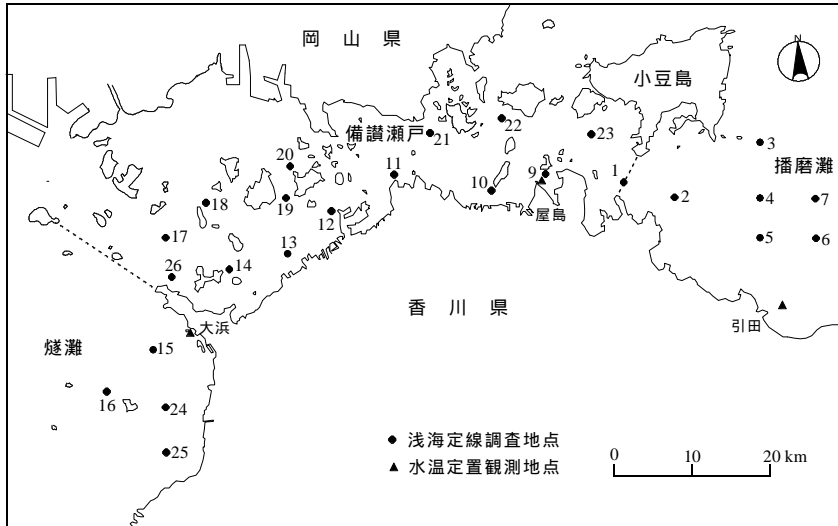


香川県漁海況速報 平成19年 2月 (H18-11号)

香川県水産試験場

1. 海況

1) 観測地点



2) 浅海定線調査

(1) 調査日

平成19年2月6日 (播磨灘) 5日 (備讃瀬戸、燧灘)

(2) 水質概況

平年と比較すると、水温は「かなり高め」、塩分は「やや低めから平年並み」、透明度は「平年並みからかなり高め」、溶存酸素は「やや低めから平年並み」であった。

		水温 (°C)			塩分 (PSU)			透明度	溶存酸素 (ml/L)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層	(m)	表層	底層
播磨灘	7地点平均値	10.8	10.7	10.8	32.1	32.1	32.2	9.9	6.23	6.19
	平年値	9.3	9.3	9.2	32.7	32.7	32.8	8.9	6.42	6.35
	平年偏差	1.5	1.4	1.6	-0.6	-0.6	-0.6	1.0	-0.19	-0.15
	状況	かなり高め	かなり高め	かなり高め	やや低め	やや低め	やや低め	平年並み	平年並み	平年並み
備讃瀬戸	14地点平均値	10.5	10.4	10.4	32.4	32.4	32.4	7.6	6.35	6.35
	平年値	9.1	9.1	9.1	32.8	32.8	32.8	6.0	6.38	6.38
	平年偏差	1.3	1.3	1.3	-0.4	-0.4	-0.4	1.6	-0.03	-0.03
	状況	かなり高め	かなり高め	かなり高め	平年並み	やや低め	やや低め	やや高め	平年並み	平年並み
燧灘	4地点平均値	11.4	11.3	11.3	32.8	32.8	32.8	9.8	6.28	6.30
	平年値	9.9	9.9	9.9	33.0	33.0	33.1	7.5	6.52	6.47
	平年偏差	1.5	1.4	1.4	-0.2	-0.2	-0.3	2.3	-0.24	-0.17
	状況	かなり高め	かなり高め	かなり高め	平年並み	平年並み	平年並み	かなり高め	やや低め	平年並み

平年偏差 = 平均値 - 平年値

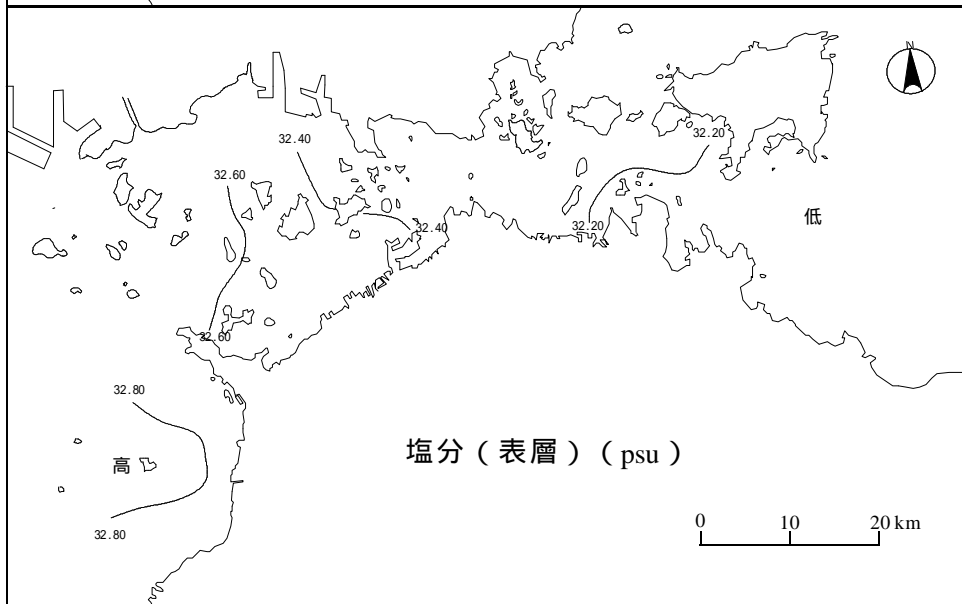
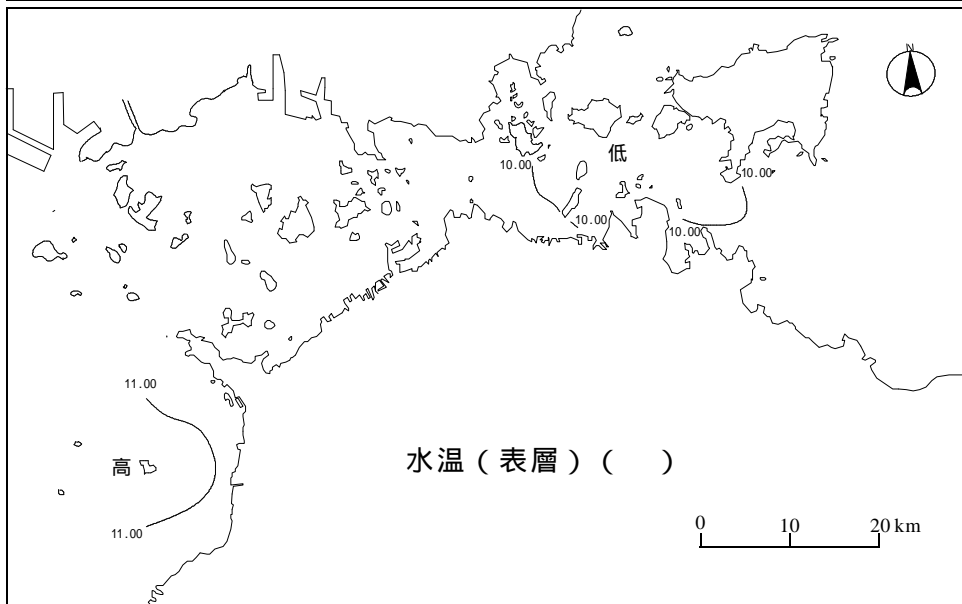
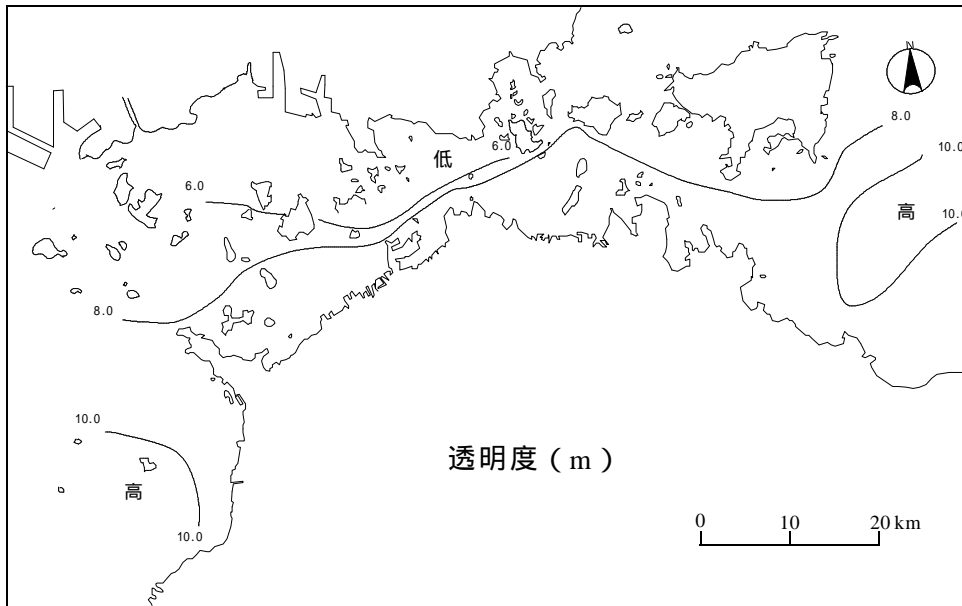
平年値の算出期間

水温、塩分及び透明度：昭和48年（1973）1月～平成13年（2002）12月

溶存酸素：昭和48年（1973）2月～平成13年（2002）12月

水温は、毎月1日の値に補正。

平年並み	0	平年偏差 < 0.6	(: 標準偏差)
やや高め (やや低め)	0.6	平年偏差 < 1.3	
かなり高め (かなり低め)	1.3	平年偏差 < 2.0	
著しく高め (著しく低め)	2.0	平年偏差	



3) 定置観測(水温)

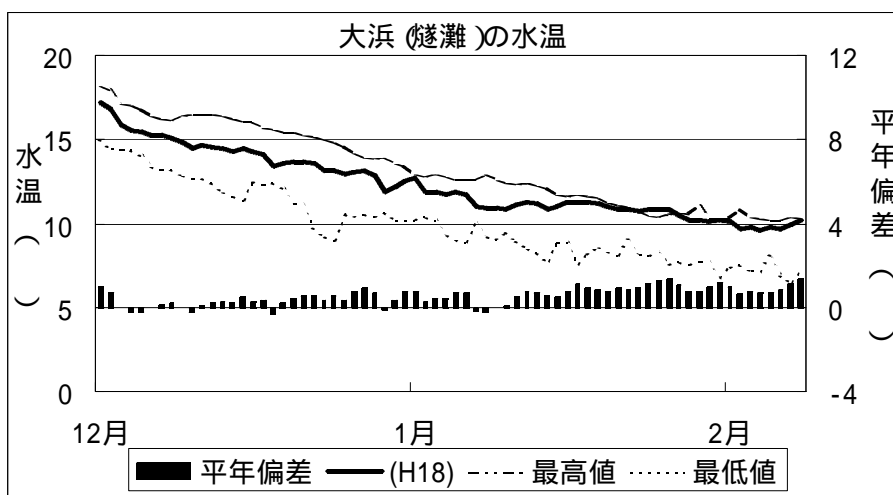
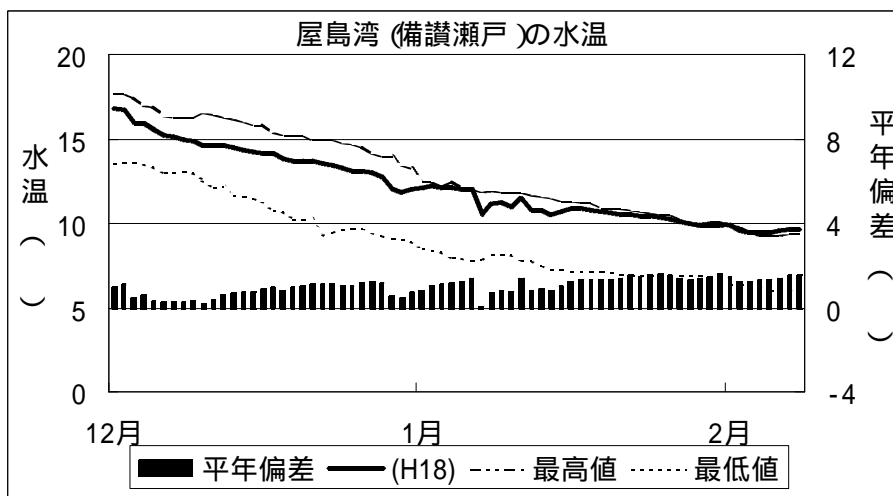
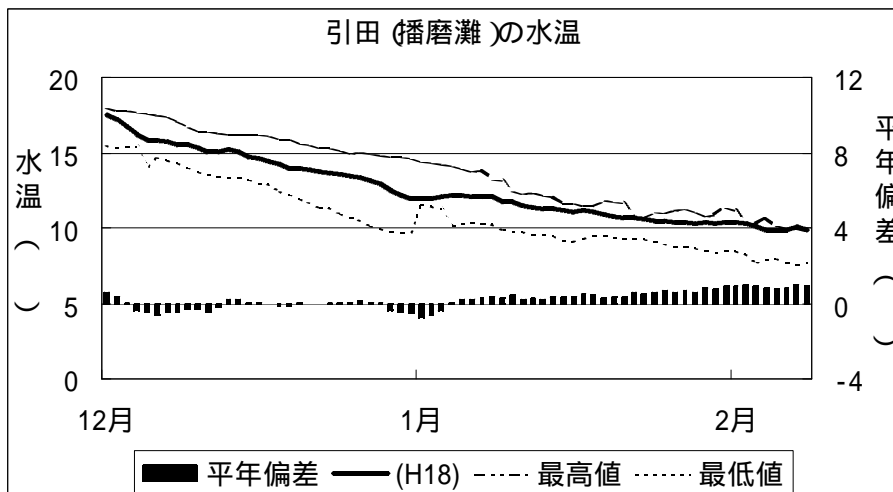
播磨灘(引田): 1月初めは平年値よりやや低め、以後の初・中旬は平年並み、下旬はやや高め、2月はかなり高めに推移している。

備讃瀬戸(屋島): 1月前半は平年値よりやや高め、後半から2月はかなり高めに推移している。

燧灘(大浜): 1月初旬は平年並み、中旬以降は平年値よりやや高めからかなり高めに推移している。

なお、各海域とも2月に入ると、過去最高値並みまたは過去最高値を上回る日があった。

平年値の算出期間 引田及び大浜: 平成元(1989)~平成17(2005)年
屋島: 昭和50(1975)~平成17(2005)年



4) 赤潮

播磨灘：発生なし。
備讃瀬戸：発生なし。
燧灘：発生なし。

5) 卵稚仔

調査日：平成19年2月6日（播磨灘）、5日（備讃瀬戸、燧灘）

出現量

個（尾）/ 曳網

	カタクチイワシ		マイワシ		イカナゴ		その他の魚類	
	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.25	0.00	1.13
備讃瀬戸平均	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.27	0.00	0.33
燧灘平均	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.86	0.00	0.14
総平均	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.17	0.00	0.50

対平年値

	カタクチイワシ		マイワシ		イカナゴ	
	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	-	-	-	0.0%	-	108.0%
備讃瀬戸平均	-	-	-	0.0%	-	52.0%
燧灘平均	-	-	-	0.0%	-	435.8%
総平均	-	-	-	0.0%	-	93.7%

- 平年値が0の場合を示す。

平年値の算出期間

カタクチイワシ：昭和55（1980）～平成17（2005）年度

マイワシ：平成5（1993）～平成17（2005）年度

イカナゴ：昭和55（1980）～平成17（2005）年度

各調査点でカタクチイワシ卵の出現はなかった。

2. 漁況

1月からの漁況は次のとおりである。

海 域	漁 況
播 磨 灘	底びき網では、主にウシノシタ類、小型エビ類が漁獲されているが、一般的に低調である。 1月上旬から中旬にかけて小豆島北東部海域の定置網で大量（200kg～500kg/日）のマコガレイが漁獲された。
備 讃 瀬 戸	底びき網では、主にウシノシタ類、メイタガレイ、マコガレイ、マアナゴ、イイダコが漁獲されている。中讃・高松沖のタイラギ潜水器漁業の漁獲量は、前年よりやや少なく、むき身で80～100kg/日・隻程度である。サイズは中型～大型貝が多い。高松沖のイカナゴ込網の1月の漁獲量は、63トンで前年の約40%と不漁であった。
燧 灘	底びき網では、ウシノシタ類、メイタガレイ、マコガレイ、オコゼが漁獲されているが、ウシノシタ類が少ない。マイワシ流し刺網は休漁状態である。